

子どもガングン伸びる 最新の脳科学



親の声かけで、子どもの創造性が伸びる！?

絵を描くことで創造性が豊かになるのは何となく分かりますよね。

「イメージ（想像）する力を使う」

「自分なりの書き方を工夫（創造）する」

ということで、創造力がアップすることは容易に想像出来ます。しかし、今回紹介するのはちょっと違った角度から絵を描くことと創造性の関連を検討した実験です。この実験は、子どもを2つのグループに分けて「部屋を汚さないように絵を描く」というルールで自由に絵を描いてもらいます。その歳、Aのグループには子どもたちの活動を抑制し統制するような声かけを、Bには子どもたちの自立性を尊重するような声かけを行いました。

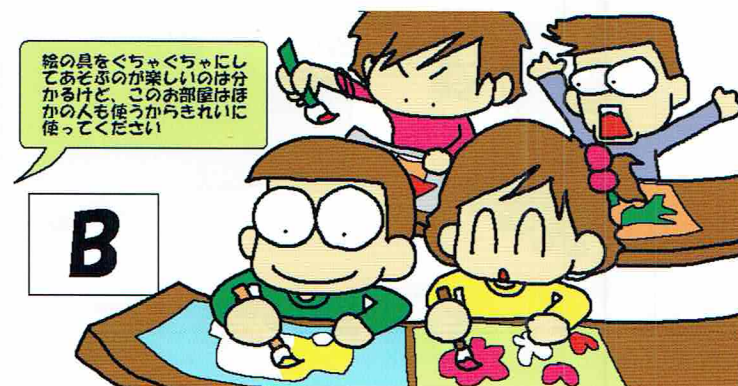


声のかけ方で、子どもの反応はこんなに変わるようです。

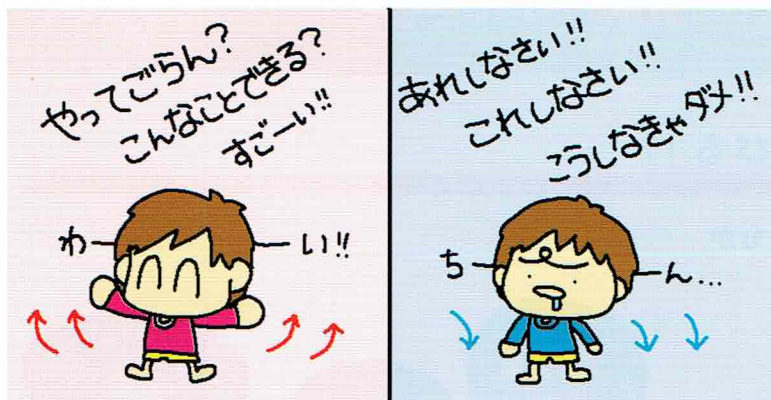
Aグループには、「よい子だから道具をきちんと使いなさい」「部屋を汚さない」「ルールは守りなさい」「絵具はまぜこぜにしない」と抑圧的な声をかけをしました。

Bグループには「絵具をこぼしたり、ぐちゃぐちゃにして遊ぶことが楽しいのは分かるけど、この部屋は他の人も使うからきれいに使ってください」と声をかけました。

BはAに比べて厳しいルールがなく、自由に絵を描くことを進めている表現です。この実験結果は、AよりBの方が子どもたちが意欲的に絵を描くことに取り組んだばかりでなく、完成した絵を専門家に評価してもらったところ、Bの絵はとても良く感情がこもった絵だったということです。声のかけ方ひとつで子どもたちの取り組みや成果が変わってくるというのがデータとなって出てきた実験です。



子どもの自立性を引き出す声のかけ方を知っていますか？



今回の実験では絵を描くことが課題ですが、絵に限らずどのような活動でも同じことが言えるでしょう。統制されるのではなく、みずからが進んで活動に取り組む子どもは、そうでない子どもよりも高い創造性を発揮して、さらに好奇心に刺激されることで自ら活動に取り組む姿勢が身についていきます。これが繰り返されることで高い創造性をはぐくむことにつながるのです。

ですから、子どもに声をかけるときはBグループのように子どもの自立性を伸ばすという点を心がけて声掛けをしてみましょう。「〇〇やっごらん ^^」「こんなことも、出来るかな?」と、子どもの“やる気”や“チャレンジする気持ち”をくすぐるような声掛けが、子どもをぐんぐんと伸ばしてゆきます。

仕事が忙しいから、子どものペースに任せておけない…



逆に、Aグループのような声掛けは、その場だけを繕うには良いかもしれませんが、しかし、言われたことだけを行うことに慣れてしまうと、自分で考えることをしなくなります。つまり、言われたことしか出来なくなってしまうという危険性を孕んでいきます。現代の子どもたちは自発的に行動する力が弱くなってきており、言われたことしか出来ない“受け身”の子が増えてきているという研究者もいる

ほどです。子どもは、成長の過程でいろいろな経験を通して、表現の仕方や社会のルールを学んでいきます。その過程において、大人から見るともどかしいこともあるかもしれませんが、Bグループのような声掛けは子どもの可能性を伸ばすことは分かっているけれど、時間がかかってしまうからついつい・・・という家庭もある

「育児（児童を育てる）とは、育自（自分を育てる）こと!!」



でしょう。「育児とは育自である」というように、たまにはグツと堪えて、子どもを伸ばすための声掛けを意識してみてもいいかがでしょうか？ 私たちは、楽しみと一緒に学ぶことで学習効率が良くなり、効率よく課題を解決する力が身についていきます。刺のある一言よりも、愛情のこもった一言のほうが子どもの心に響くかもしれませんよ。

運動療育 こどもプラスグループ

お問い合わせはこちらから → TEL: 0120-970-421

「参加を希望する教室の住所または地域をオペレーターに申し添えてください。」